

写真人とその本 7 / 松田二三男

日本カメラ博物館 JCII ライブラリー
学芸員 宮崎真二

松田二三男（1918-2003）は裕福な家庭の五男として生まれ、父親が遺したカメラと暗室用品で遊んでいるうちに写真に興味を持ちます。小学生の頃から自身で現像処理を行い、中学生の頃には写真雑誌の月例などに応募して腕を磨きました。またこの頃ドイツ製カメラの「コンタックス」と「スパーブ」を入手し、「家二軒分を首から下げて歩いていた」（『'94 カメラこだわり読本』・毎日新聞社）という具合に写真に熱をあげていました。

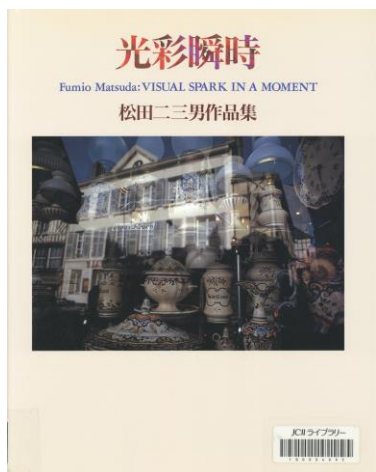
1938年に早稲田第二高等学院へ入学し、早大写真部へ入ります。翌年には大宅壮一が引率する東京の大学写真部員による満洲、北京撮影隊「大陸カメラ使節」が結成されました。松田も同隊に選抜され、『カメラ報告・大陸』（東京日日新聞社 大阪毎日新聞社・1939年）に作品が掲載されています。さらに『写真文化』（アルス）1942年4月号では「第一次新鋭作家推薦 私の作品と感想」として、樋口進亮、大竹省二とともに作品紹介とコメントが掲載されています。同号にはグラフ作品と月例入選作も掲載されているなど、写真部の代表幹事として並々ならぬ活躍をしていたことが伺えます。



『松田二三男写真教室』

1942年9月に早稲田大学法学部卒業後兵役に就き、戦後は会社勤務と並行しながら写真雑誌で執筆活動を行い、1953年にフリーの写真家となりました。以降写真雑誌を中心に、メカニズムに精通した技術研究、評論記事の執筆およびアマチュアへの技術指導など幅広い活動を行います。この功績が評価され、1992年に勲五等双光旭日章を受章しました。またクラシックカメラにも造詣が深く、日本カメラ博物館運営委員ならびに全日本クラシックカメラクラブ（AJCC）の顧問と会長を務めました。

著書は技術指導書が中心で、『松田二三男写真教室』（鶴書房・1966年）、『松田二三男の写真学校』（同・1968年）、『傑作カメラ術 どんなものでも狙い通りに一発でキメるコツ』（ごま書房・1980年）、『傑作への早道 25 写真をまとめるケースバイケース』（朝日ソノラマ・1981年）などがあります。



『光彩瞬時』

1992年には自身初の写真集となる『光彩瞬時』を日本カメラ社から刊行しました。同書はヨーロッパとアメリカで、仕事などの合間に撮影した「いつもの、自分の作品」をまとめたものです。技術指導者らしく、巻末には作品の撮影テクニック解説が掲載されています。

同書あとがきに「作品制作を息巻いて撮り続けた撮影行ではない」「多分に趣味と仕事を兼ねた撮影行」とあるように、また「写真は、もうかるからやるというのではなく、好きでおもしろいからやるという精神で続けてきた」（『'94 カメラこだわり読本』）と、プロではあるものの、アマチュアの気持ちを持って活動を続けるスタンスを生涯貫きました。